

10月17日(月) 全校朝会

始めに元気よく朝の挨拶をしましょう。おはようございます。今日は「読書のすすめ」という話です。上ノ原小学校では、先週まで「もみじの読書期間」でした。みなさんは、たくさん本を読みましたか。

校長先生は、小さいころ本を読むのが好きではありませんでした。担任の先生や親は、こう言っていました。「本を読みなさい。本を読めば、知らないことや人の気持ちなどいろいろなことが分かる。集中力が付く。想像力が付く。読解力が付く。作文を書く力が付く。何より賢くなる。」と、また「この本がいいよ」といろいろとすすめられもしました。だけど、好きになれなかったんですね。

理由はいろいろあります。まず、時間がかかる。読むのが面倒くさい。外で遊んでいるほうが楽しい。ためしに読んでみても続かない。漫画を読んでいるほうが楽しい。漫画だって本だからいいだろうと言ってもダメみたいなんですね。

そんな校長先生でも、小学生のとき何冊かの本を読みました。今でも覚えているのが、この「吉四六さん」と「子供寄席」です。吉四六さんは、校長先生が小学校2年生くらいの頃に、はじめて父親から買ってもらった読み物の本です。読んでみると、ここに出てくる「とんちばなし」が面白くて、どんどん読み進めることができました。また、子供寄席に書かれている落語の話も登場人物が面白くて、学校の図書室にあったシリーズ全巻を読みました。やはり、人から言われた本ではなくて、自分が面白いと思った本は楽しく読めるんだなと思いました。上ノ原小学校にも、吉四六さんや子ども寄席の本がありますので、皆さんも手に取ってみてください。

今では、誰も校長先生に「本を読みなさい」とは言いません。ですが、本の楽しさを知った今は、以前よりもたくさん本を読むようになりました。学校に来るときの電車やバスに乗っている時間に本を読むことが楽しみの一つになっています。

「もみじの読書期間」は終わりましたが、皆さんには、これを機会にしてたくさん本と出合っ  
てほしいと願っています。皆さんが書いたお勧めの本の感想が放送室前に貼り出されますから、  
そちらもぜひ見てください。

今日は、普段はあまり本を読まないという人も「もみじの読書期間」の機会に本を読んでみてください。きっといいことがありますよ。という話でした。お話を終わります。

